

北海道拓北養護学校



コミュニティ・スクール
だより

第7号

令和8年7月24日
北海道拓北養護学校
学校運営協議会事務局

7月9日(木) 第1回学校運営協議会を実施しました

今年度は、学校運営協議会を実施して4年目となります。第1回目の学校運営協議会は7名の委員に御参加いただいて実施しました。

学校運営協議会委員	事務局
会長 佐々木 俊 晃 様 拓北・あいの里まちづくりセンター所長	中川 雅人 (副校長)
副会長 服 部 潔 様 拓北興産社町内会 副会長 (三区区長)	丸橋 均 (事務長)
委員 高 橋 くに子 様 NPO 法人自立支援センター「歩歩路」 副理事長	吉岡奈穂子(教頭)
森 貴 之 様 札幌協働福祉会アクティビティセンター 副施設長	熊谷 英剛(主幹教諭)
渡 辺 一 生 様 札幌市立あいの里西小学校 校長	梶上麻衣子(リスクマネジメントチーム)
太 田 徹 様 北海道札幌英藍高等学校 校長	穴田 純(キャリア・サポートチーム)
富 家 直 明 様 北海道医療大学心理科学部長 教授	五十嵐尚美(カリキュラム・マネジメントチーム)
池 田 千 紗 様 北海道教育大学札幌校特別支援教育専攻 准教授	稲葉麻佐子(研究センターチーム)
梅 原 麻 紀 様 北海道拓北養護学校卒業生保護者 (元 PTA 会長)	
永 沼 秀 美 様 北海道拓北養護学校保護者 (元 PTA 会長)	
広 島 理 恵 様 北海道拓北養護学校 PTA 会長	
近 藤 正 臣 様 北海道拓北養護学校 校長	



(学校運営協議会の様子)

校長と副校長より次の内容の説明を行い、最後に質疑応答と意見交換となりました。その内容について、お知らせいたします。

○主な説明

- 1 本校の学校運営協議会 (コミュニティ・スクール) について (副校長)
- 2 令和8年度学校経営について (校長)

<学校経営の柱>

- (1)一人一人の発達段階に応じ、児童生徒にとって、学びが楽しく、個性を伸ばす教育の推進
- (2)安心安全な環境を維持し、命と健康と人権を守る学校環境づくりの構築と維持
- (3)学校・家庭・地域が連携し、社会に開かれた教育課程の実現の推進
- (4)教職員同士が協力して、意欲に溢れ、働きがいのある学校づくりの構築と更新

<R8年度の重点目標 (ミッション)>

- ①「たくほくコンパス」を活用した教育課程の充実と授業改善の推進
- ②安心安全で一人一人を大切にする学校環境の維持と改善
- ③日常的に地域・家庭と連携した教育活動の推進

○主な御意見や質問

- 1 【「たくほくコンパス」を活用した教育課程の充実と授業改善の推進について】
 - ・個別の教育支援計画を単発で終わらせず横断的・継続的に捉えるアプローチ (小中高の連携) はカリキュラム・マネジメントに直結しており、小中一貫教育を進める上でも非常に学びになる。
 - ・先生方が授業のない時間 (放課後等) にこれだけ連携し、生徒一人一人のために動いて研修されていることを知り納得した。この取組をもっと他の保護者にも知ってほしい。
 - ・先生方の研修の様子は届いていない。「たくほくコンパス」の意図が多くの保護者に十分に伝わっていない。

- ・アプローチの方法が担任の先生の技術力や得意分野によって差がある。先生方の中で技術やアプローチの仕方を共有してほしい。「これができるようになった」という小さな変化を引き出す授業をしてほしい。
→特別支援学校は職員の引き出しの多さや経験の差が出やすい特色がある。だからこそ、一定の基準をもって保護者と方向性を共有することが大事である。(校長)

○職員間のコミュニケーションや情報共有の方法などで取り組んでいることはあるか。

- ・週1回のミーティングで話し合い、客観性を共有している。特に児童分野は関わり方で人生が変わるため、全員が責任感を持てるよう組織的にマネジメントしている。
- ・窓口を空けられないため全員での意識統一や時間外の活用が極めて難しい中、誰でも均一な対応ができるようマニュアルを充実させることでサービスの質を担保している。

2【安心安全で一人一人を大切にする学校環境の維持と改善について】

○防災関係について、全員で意識を高める取組をしているか。

- ・支援の土台となる法人の理念、事業所の目標、倫理綱領、行動規範などを職員に伝え続けている。自分事として捉える姿勢をスタッフ間で求めるためにも、共有ミーティング等でこの話を広げていきたい。
- ・子どもは理解していても衝動的に行動してしまうため、一般的な避難訓練に加え、チェックリストを用いた毎日の指導や発生時の臨時指導を繰り返し行い、安全意識の定着を図っている。
- ・「情報共有」「定期的な話し合い」「普段からの声掛け」など、結局は日常的な声の掛け合いが全てだと感じる。自分も後々「あの時言っておけば」となることが多い。「伝える」環境づくりが大切だと再確認した。

○町内会での行動の統一方法や情報の伝え方はどうしているか。

- ・デジタル化の利点は理解しつつも、会員の高齢化や生活事情の多様化により、連絡手段の移行や共同活動への参加に大きな偏り・格差が生じており、強制力を持たない中で地域全体を巻き込んだ変革を進めることの難しさに直面している。

3【日常的に地域・家庭と連携した教育活動の推進について】

- ・「たたく」への継続的な参加を通じ、多様な地域住民が一体となる温かい空間に感動するとともに、まちづくりセンターの協力も得て2年目の取り組みが地域へ着実に浸透していることをうれしく感じている。

○災害時を想定した「引き渡し訓練」において、保護者がどうしても迎えに來られない場合、日頃から連携している福祉事業所等へ引き渡しの協力を仰ぐといった想定は可能か。

- ・通所事業所は基本的に家族への引き渡しが原則であり、職員数にも限りがあるが、学校からの引き取り要請に対して現実的に何ができるか、今後法人内で具体的な検討を進めていく必要がある。
- ・瞬時の避難対応の難しさは想定している。将来的な合同避難訓練を見据え、今年度から近隣校への挨拶や事業所見学を通じた「地域に知ってもらうための種まき」と交流を始めている。
- ・札幌市の要支援者把握や避難計画は「自助」頼みの途上段階にあるため、在宅の呼吸器使用児や肢体不自由児といった災害弱者の存在を地域に知ってもらうべく、学校や地域と連携した交流機会づくりが不可欠である。

○校長からの挨拶

- ・貴重な御意見ありがとうございました。子どもが主役の学校づくりのために足元を見つめ直し、本日いただいた御意見を今後の改善に繋げていきたい。本日はありがとうございました。